

別紙様式 1

令和 5 年度宮原中学校区研究推進計画

校番 (1 1) 呉市立宮原小学校

校長名 小竹 術

1 学校教育目標

- 宮原中学校 「夢を志に～未来を拓く力の育成～」
- 坪内小学校 「みずから ひらく」
- 宮原小学校 「学び考え行動する人を育てる」

2 目指す児童生徒像

自分を磨き，社会の一員としてよりよく生きようとする児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等		
	①知識・技能	②論理的思考力・判断力・表現力	③主体性・協働性	④自己指導力 (自律・貢献)	⑤郷土愛
後期	新たに獲得した知識や情報を関連付けたり再構成したりして，さまざまな場面で生きて働くための基本的な知識・技能を身に付けている。 (中2～中3)	精査した情報を関連付けたり再構成したりして課題解決へ向けた考えを形成し，根拠を明確にして適切に表現することができる。 相手の話に感想を述べたり意見を伝えたりするつもりで聞くことができる。	新たな価値の創造へ向けて対象に主体的に働きかけ，他者を尊重しながら見通しをもって課題を解決することができる。	自律して行動することができる。 中学校区の学校や社会のために貢献しようとして行動することができる。	地域社会の一員としての自覚をもって主体的に関わり，地域に愛着と誇りをもつことができる。
中期	新たな知識や情報を関連付けたり組み合わせたりして，さまざまな場面で活用するための基本的な知識・技能を身に付けている。 (小5～中1)	必要な情報を比較・関連付け・整理分析して課題解決について論理的に考え，根拠を明確にして表現することができる。 自分と他人の考えを比較しながら聞くことができる。	対象に積極的に働きかけ，他者の考えを受け入れながら課題を解決することができる。	規範の意味や価値を理解し，自ら判断して正しく行動することができる。 学校や地域のために貢献しようとして行動することができる。	地域の歴史や伝統・文化を知ってつながりを大切にし，地域に愛着をもつことができる。
前期	新しい知識や情報をさまざまな場面で活かすための基本的な知識・技能を身に付けている。 (小3～小4)	複数の情報を比較・分類・整理して課題について筋道立てて考え，理由を明確にして説明することができる。 話の中心は何か考えて，質問するつもりで聞くことができる。	身の回りの人・もの・ことに積極的に関わり，協力しながら課題を解決することができる。	規範に沿って自ら判断し，正しく行動することができる。 よりよい学級，学校にしようとして活動するとともに，地域のためにできることを考え行動することができる。	地域の良さや特色を知って積極的に関わり，地域を好きになることができる。
	新しい知識や情報を他の場面で活かすための基本的な知識・技能を身に付けている。 (小1～小2)	身の回りの事柄についての気付きをもとに，課題について順序よく考え，理由を挙げて説明することができる。 興味をもって目を見てうなずきながら聞くことができる。	身近な人・もの・ことに進んで関わり，意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	学校のきまりや生活のルールを守って行動することができる。 自分から進んで学習や生活に取り組み自分のことは自分でやろうとする。	地域の良さを知り，地域を好きになることができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現と自己指導力の育成
～「聴いて考える授業」づくりと積極的な生徒指導を通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和4年度、本中学校区では、「『考える授業』づくり」として、「思考を深めるための授業構成」「児童生徒の主体的な思考を促し高める発問」「タブレット等のICT機器の効果的な活用」の3点を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善に取り組んだ。併せて、あらゆる教育活動に生徒指導の3機能を取り入れ、児童生徒の自己指導力の育成を図ることを目指してきた。

授業改善の取組の結果、指標の一つである全国学力・学習状況調査には、次のような数値が現れた。

指標	結果		
	坪内小（全国比）	宮原小（全国比）	宮原中（全国比）
全国学力学習状況調査 （令和4年5月実施）	国 72% （+6.4%） 算 66% （+2.8%）	国 64% （-1.6%） 算 62% （-2.0%）	国 69% （±0.0%） 数 44% （-7.4%）

この数値から、坪内小学校以外に学力の課題があることが分かるが、中でも算数・数学は国語と比較して3校とも学力に課題がある。

令和4年度、授業改善の中心として、児童生徒の実態を踏まえ、どのような力を付けるために授業構成と発問の工夫をするのかという視点を持って授業研究に取り組んできた。年度終わりの小中一貫教育合同研修会では「教員の授業力は向上したが、生徒の学力差が大きくなった」という中学校からの反省が出された。小学校においても学力差はあり、「全国学力・学習状況調査」の通過率30%未満の生徒が0にはなっていない。小学校での学力差は中学校では一段と大きくなる。また、児童生徒の「聴く力」の差や教師の「聴かせる指導」にも課題があると思われる。そこで授業はじめに「基礎・基本」の反復練習を取り入れ、基礎学力を定着させたい。さらに、昨年度に続き児童生徒に付けたい力を明確に設定した上で、授業構成や発問の工夫を考える授業づくりを行い、『基礎・基本』の定着と『聴く力』にも焦点をあてて研究を進め、資質・能力の向上を図る。

また、学びの基盤づくりにおいては、継続した課題として「メディアコントロール」「早寝・早起き」の2点がある。この2点は、児童生徒の学習への影響が大きだけでなく、「自己指導力の育成」という観点からも確実な定着を目指したい。そのためには、成果を自覚できるような「メディアコントロール週間」で改善するなどしながら、3校共通した取組を継続していく。併せて、「そうじ・あいさつ・くつそろえ・時間を守る」の更なる定着に取り組み、児童生徒の自己指導力を高めることを目指す。

さらに、「授業づくり」と「学びの基盤づくり」双方に関係してくる『聴く』ことの指導に小中で取り組みたい。

以上のように、令和5年度は、令和4年度の取組を引き継ぎながらも、より児童生徒が自分自身の成長を自覚できるような授業づくりと、学びの基盤づくりを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現と自己指導力の育成を目指していきたい。

(3) 研究仮説

「聴いて考える授業」づくりと積極的な生徒指導を行うことで、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現し、自己指導力を育成することができるであろう。

5 研究内容

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組（『学習3項目』の徹底）

①「聴いて考える授業」づくりに向けた取組（◎は重点）

・反復による基礎・基本の徹底（キュビナの活用）

・話を聴く土台づくり（国語科・帯タイム）

◎「もっと考える」「大事なものが何か考える」「友達と比べて考える」「友達と意見を伝え合う」という姿になる発問・学習材づくり

・深い学びをさせるための場の設定と振り返り（「宮原授業モデル」）

②タブレット等のICT機器の効果的な活用

・教材や教材提示の工夫

・思考ツールの活用

(2) 自己指導力の育成を図る取組

○児童生徒の自律性を高める取組（『生活5項目』の徹底）

○児童生徒の郷土愛と貢献の意識を高める活動

（異学年グループによる体験活動・地域貢献活動の充実，児童生徒代表者会「宮原子どもサミット」の取組）

○家庭を巻き込んだ生活習慣の確立

（生活リズム改善「早寝・早起き・朝ご飯習慣」「家庭学習習慣」食育推進，体力向上，電子メディアコントロールの取組）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値（R4）	達成目標
① 4「聴いて考える授業」づくりによる授業改善ができたか。	（1）授業改善シートを用いた研究授業協議会の充実	○「学習2項目」に関する自己評価（4段階評価） ○校内・校区内の改善状況の記述	R4の数値なし	○肯定的評価 80%以上 ○授業改善に前向きな記述 70%以上
	（2）研究授業後に授業改善ウィークを設定			
	（3）授業改善ウィーク後の教員アンケート			
	○児童生徒アンケート	「学習2項目」に関する自己評価（4段階評価）	R4の数値なし	肯定的評価 80%以上
② 児童生徒の自己指導力を高めることはできたか。	児童生徒アンケート	「生活5項目」に関する自己評価（4段階評価）	89.5% （ア：⑦⑩⑬⑱）	肯定的評価 95%以上
	児童生徒アンケート	「基本的な生活習慣」に関する自己評価（4段階評価）	66% （ア：⑨⑪⑫）	肯定的評価 75%以上

※ア＝学校生活に関するアンケート

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）

（中→小）第6学年 英語（1），数学（1）

（小→中）第7学年 国語補充（2），数学補充（2）

イ 小学校教科担任制等

宮原小 第6学年・第5学年（音楽）（図画工作）（家庭科）

第4学年（音楽）（図画工作）

第2学年・第3学年（音楽）（書写）

第1学年（音楽）

坪内小 第3学年～第6学年（理科）（書写）

第5・6年（家庭科）

第3・5年（図画工作）

8 推進計画

月 日	内容		
	宮原中	坪内小	宮原小
4月5日(宮中) 5日(坪小) 5日(宮小)	各校での校内研修（今年度の方向性の確認）		
4月20日	第1回 小中一貫教育 運営委員会		
5月18日	第1回 宮原子どもサミット		
5月22日	第1回 小中合同研修会（坪内小）		
6月1日			授業研究（2年）
6月5日	小中クリーン活動		
6月中	授業研究		
6月20日		授業研究（6年）	授業研究（特別支援学級）
6月23日	学力補充（宮小教員）		

6月26日	学力補充（坪小教員）		
7月3日	意識調査①（児童生徒・教職員）		
7月3日	第1回 小中合同授業研究（坪内小4年） 指導講話 広島大学名誉教授 朝倉 淳		
7月5日	あじさい剪定		
7月11日	ペタンク練習会（4年・7年）		
7月14日	第2回 宮原子どもサミット		
7月28日	第2回 小中一貫教育 運営委員会		
8月3日	第2回 小中合同研修会 指導講話 呉市教育委員会		
8月2日		小学生学習会	
8月3日			小学生学習会
9月24日	ペタンク大会		
9月26日	第2回 小中合同授業研究（宮原小5年） 指導講話 広島大学名誉教授 朝倉 淳		
10月6日		授業研究（1年）	
10月25日			授業研究（6年）
10月27日	地域公開参観日		
11月8日			授業研究（4年）
11月中	授業研究		
12月1日	意識調査②（児童生徒・教職員）		
12月5日	第3回 宮原子どもサミット		
1月26日			授業研究（1年）
1月中	授業研究		
2月7日	第3回 小中合同研修会 指導講話 呉市教育委員会		
2月8日		授業研究（3年）	
2月9日			授業研究（3年）
2月19日	小中一貫教育コーディネート会		
2月26日	第3回 小中一貫教育 運営委員会		
3月5日	第4回 宮原子どもサミット		

9 その他

・小中一貫だより（年3回発行予定 各学校だよりの中に小中一貫教育の内容を加える。）

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。

・児童生徒アンケートの項目に加えるもの

『生活5項目』

- 1 自分から、立ち止まって挨拶をしよう
- 2 『はい』と大きな声で返事をしよう
- 3 時間いっぱい黙って掃除をしよう
- 4 脱いだくつやスリッパをそろえよう
- 5 時間を守ろう

『学習2項目』

- 1 「聴いて考える姿」をめざそう（思考・判断・表現）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○「何でだろう」「どうなるかな」と考えて学習しよう。（小1～小2）○「大事なことが何か」考えて学習しよう。（小3～小4）○自分と他人の考えを比較して学習しよう。（小5～中1）○相手の話に感想を述べたり、修正した自分の意見を伝えたりして学習しよう。
(中2～中3) |
|--|

- 2 「良い聴き方」をめざそう（土台）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○目を見てうなずきながら聴こう。（小1～小2）○大事なことを落とさず聴こう。（小3～小4）○比べて聴こう。（小5～中1）○自分の考えをもって聴こう。（中2～中3） |
|--|

※1, 2は発達段階に応じて変える